

第1回笠原小学校適正配置に関する意見交換会における主な意見、質問・回答

【保護者対象意見交換会 平成28年1月31日（日曜日） 笠原公民館】

主な意見

I. 少人数教育について

- ・ 人数が少なくなることで、子どもの立ち位置が決まってしまうことがあるので、子どものために保護者のみなさんが真剣にこの問題に取り組んでいただきたい。
(学校関係者)
- ・ 児童が少なくなると、6年間役割分担が決まってしまう、特に自分の意見を主張できない子どもは中学校で不登校になるという問題もある。
(学校関係者)
- ・ 学校と地域は密接な関係である。学校評議員さんのお話を聞き、なぜ小さな学校がいけないのか、そこが一つの疑問である。小さい学校ほど先生が目が行き届く。大きな学校になれば、意見が言えるようになるのか。ヨーロッパでは少人数学級が進んでいる。なぜ、教育にお金をかけないのか。
(笠原地域以外の方)
- ・ 3年生は14人で、1年から6年まで仲良しで6年間過ごせるのは良いが、優秀な子、そうでない子と立ち位置が決まってしまうのが現状である。少人数の良いところもあると理解しているが、もし今のままの小規模校を進めるのであれば、大きな学校と交流を持ち、大勢の人数の中に入り揉まれる環境を進めて欲しい。現に中学に入学し、大勢の人数の中に入り、どうしてよいかわからない子どもたちもいる。保護者としては、単学級でなく、2学級ある学校を望むが、もしこのままの規模の笠原小を進めるのであれば、1学期ごとに1回くらいは、中央小などとの交流の機会を増やしてほしい。
(笠原小保護者)
- ・ いじめをクラス替えで解決するのではなく、クラスの中で考えることが必要であり、子どもがそれを乗り越えることが大人になるのに大事なこと。笠原小は、同学年の人数は少ないが、異学年との交流がある。小さな学校であるが、すばらしい学校である。
(笠原小保護者)
- ・ 少ない人数でも対応できる学習方法もあると思う。人数が多ければ良いということも、少ないから駄目ということもないと思う。インターネットを活用

した学習方法などを取り入れることは考えていないのか。(笠原小保護者)

II. 笠原小の適正配置について

- ・バスになると、体力づくりが心配なので、その対策をとってほしい。中央小は老人ホームになると聞いている。笠原小も中央小もなくなると、母校がなくなってかわいそうだと思う。笠原は市街化調整区域で、家が建てられない地域なので、家が建てられるようにしてほしい。また、道路が整備されていない。学校が遠いため、近い学校へ行く児童も含めて、見直しをするのであれば、全体で考えてほしい。(笠原小保護者)
- ・4月に入学する予定である。10人クラスに入学するが、親としてそれほど心配していない。田間宮地区に住んでいるのだが、学区外から通学することになる。自分の実家は笠原にあり、笠原小出身で環境はわかっている。小さい学校、大きな学校にも利点はあると思う。例えば、3つの小学校を一つに、中央小になるとしたら、上の子どもは田間宮小だが、同じように校庭は狭くなり駐車場は無く、無理矢理車を止め、周りに迷惑をかけるようになるのではないかと心配する。他の学校との交流のご意見があったが、他の学校と1年に1回陸上大会、バスケット大会等の交流はしているので、もっと普段から授業も含めて市内の学校と交流できるようになればいいと思う。また、通学区の見直しや通学区の弾力化のアピールをしてもらえれば良いと思う。弾力化については、条件もあるが、条件の見直しをすれば、もっと申請が増えると思う。(笠原小保護者)
- ・スクールバスになると地域との関係がなくなってしまう。子どもの心身の成長を考えると歩いて学校に行くことは大事なことだと思う。(笠原小保護者)

III. 笠原小と笠原地域について

- ・小学校がなくなってしまうと、自分の子どもが笠原に戻って来なくなると思う。どんどん笠原地区が衰退してしまう気がする。今は、かさはらいいきスポーツクラブ、放課後子ども教室など地域の人たちに守られている素晴らしい学校である。今後、高齢化が進んでいくと、若い世代が笠原地区を守っていかなければならないので、笠原地区に家が建てられるような制度を考えてほしい。(笠原小保護者)
- ・先日、テレビ埼玉で、笠原小の「かさっこ鍋」を特集してもらった。国の制

度で、小規模校でも地域との関わりがあれば、特例で残すこともできるという記事も新聞で読んだことがある。私は、上尾市の大規模校で育ったが、他学年との交流、地域の皆さんに育てられている笠原小と遜色はないと感じている。合併が決まっていなければ、笠原小をぜひ残してほしい。

(笠原小保護者)

- ・ 私は北本の出身、主人は宮前の出身で、笠原には親戚もいない。友人が笠原に住んでいて、遊びに来て笠原が良いところなので笠原に移り住んできた。住んでいる人たちも気さくで、また、小学生の子どもたちも元気に挨拶をしてくれて気に入った。私の周りにも笠原に住みたいと言っている友だちもいる。小学校も小さい学校で困ったことはない。複式学級になったとしても気にしていない。それよりも、笠原に家を建てられるようなことから進めてほしい。
(笠原小保護者)
- ・ 私は川口市育ちで、この笠原とは育った環境は違うが、小規模は小規模なりの教育が経験できると思っている。子どもたちが社会に出るまでに何年もある中で、中学、高校と大人数での教育が経験できることがわかっていて、少人数で小学校を過ごすのがいけないということがわからない。140年も歴史のある学校が無くなるというのは、残念なことである。子どもたちが帰ってくる場所が無くなってしまうと考えると、今後笠原地区が発展することを考えてくれる方が先だと思う。
(笠原小保護者)
- ・ 以前は、中央小のエリアに住んでいたが、子どもの入学を機会に笠原に親戚がいたので移り住んできた。なぜ、越してきたかという地域とのつながりが強いということに魅力があったからなので、小学校が無くなるということは辛い。
(笠原小保護者)
- ・ 学校がなくなってしまうたら、今の子どもたちが大人になって、笠原に戻って来ようと思っても学校がないので、笠原でなく市内や市外に住む人が多くなり、どんどん笠原が衰退してしまう。将来のことを考えて、学校が一つなくなると人口が少なくなる、そのことを踏まえて方向性を出してほしい。
(笠原小保護者)

IV. 今後の意見交換会の進め方について

- ・ 児童数の減少ということは、鴻巣市が別な問題を抱えているのではないか。もっと魅力あるまちづくりが必要ではないか。児童数や生徒数が減るのは、子どもたちのせいではない。鴻巣市が素晴らしいといった実績がないからだと思う。教育は切磋琢磨が必要ということで大きな学校が良いと言っている

が、少人数学級のほうが効果大であるというのが定説である。子どもたちのために、適正規模、適正配置が良いと言うが、本当に子どもたちのことを想って言っているのか疑問である。伸びる子もいれば、落ち込む子もいる、そのような中で人数が少なくなれば先生が目が行き届く。いじめ問題もなくなると思う。財政難が問題であれば、なぜ市役所は言わないのか。説明を聞いて、これから意見を聞いて、始まったばかりということで、初期の段階で、このような意見を聞く機会があり良かった。これからの未来の子どもたちのことを思って、意見を聞いて進めてほしい。(笠原地域以外の方)

- 人数が減っていくグラフだけの資料 1 枚だけでなく、適正配置しなければならぬ根拠になる資料等を提示して、意見交換会に臨んで欲しいと思う。

(笠原地域以外の方)

- 少子化、時代の流れなどの問題は感じていて、この話もわからないわけではないが、自分も笠原小を卒業し、歴史のある学校がなくなるのは反対したい。他の方から意見があったが、地域に学校がなくなると人口が集まらなくなってしまう。今回の意見交換会には一部の人しか集まっていないので、もっとたくさんの人にわかってもらいたい。自分は、1 クラス 20 人で、出来の良い子、悪い子と決まっていたが、皆でがんばろうと一体感があり、6 年間過ごしてきた。先生が目も行き届き、何の問題もなかった。40 人になったらと考えると、先生が目が届くのかと思う。適正配置というのが、何を持って適正配置なのかかわからないが、今後、意見交換会を進めていくということであり、進捗状況を知りたいと思うので、そのへんも考慮してほしい。

(笠原小保護者)

V. その他

- 毎年、新日本婦人の会の方と市内の小中学校を訪問している。笠原小を訪問して、笠原小は地域とよく結びついていると強く感じている。また、公民館のおまつりにも招待されるが、笠原公民館まつりは地域のおじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんがたくさん出演され、地域が一体化されていると感じている。地域みなさんに支えられ、子どもたちが優しさを覚えていくのも教育だと思う。人に優しくされた子は、他人を傷つけない。学校の教育も大切だが、地域の皆さんに人間関係を育てていただくことも教育だと思う。子どもの数が少なくなったから学校をなくすということは大変なことである。子どもたちを皆で育てることが必要である。子どもの数が少なくなるからといった資料だけでなく、子どもたちの将来のことを考えて、意見

交換をしてほしい。私も小規模校で育ったが、自分の意見をきちんとはつきり言えるようになった。(笠原地域以外の方)

- 資料が1枚という意見があったが、既に公表されている「鴻巣市立小・中学校の適正規模及び適正配置に関する基本的な考え方」が適正配置のスタートというのであれば、今後はこの資料を配布していただきたいと思う。その中で、小規模校のメリット・デメリットなどが書いてあり、適正規模、適正配置の考え方もわかりやすく書いてあるので、これを使ってほしいと思う。適正配置は、どこから出ているかという、経費の削減から出てきた話である。教育予算を削る前に、他に削る予算があるのではないか。スウェーデンやノルウェーなどは、一つの学校が100人以下である。人数が少なくなり単学級になるというのなら、30人居たら15人学級にすれば2学級になる。そうすれば児童に目が行き届く。小学校は地域の防災の拠点にもなっている。文化の拠点でもあるが、常光地区のように宅地開発ができるよう制度を変えて、人数が増えて今のままだも笠原小が継続できるように議会の中でも、今日、皆さんの声を聞いたので、訴えていきたい。(笠原地域以外の方)
- 12月議会で適正配置について質問させてもらった。学校がなくなると地域がなくなってしまうといった声も聞いている。今日は皆さんから、笠原小は地域の方々が一体になり子どもを育てていると感じた。学校がないところには新しく住む人はいない。鴻巣市も人口減少対策を考え、学校を守りながら新しい人口を増やすことを教育委員会から市政の方に声を上げてほしい。今日は、たくさんのお母さんの意見が聞けて、良い意見交換会だったと思う。(笠原地域以外の方)
- 人数が少ないと困るという意見もあるが、自分の息子は共和小で13人の学年だったが、子どもも親である私も人数が少ないことで困ったことはない。校長先生をはじめ、地域の方々に支えられて育った。一度外へ出ていたが、今、子どもたちは戻ってきて、孫も共和小に通っている。保護者の方の意見を聞いていると、地域と密着している素晴らしい学校であると感じている。笠原小に通いたいと思ひ転居した方やまだ転居できない人もいる。かつて私の住む地区も家を建てられなかったが、今は家が建てられるようになり子どもが増えている。行政が真摯に受け止め、人口を増やす方法を考えてほしい。(笠原地域以外の方)
- 中央小学校と統廃合するにあたり、学童保育の問題、低学年、高学年が通うためのスクールバスの問題など保護者の皆さんのご意見を伺いたいと思う。(学校関係者)
- 子どもたちのために保護者として何が問題なのかを話してほしい。(学校関係者)

- ・ 地域と学校は密接な関係なので、たくさんのご意見を述べてほしい。
(学校関係者)
- ・ 20年位前に、箕田小で統廃合の話があった。箕田小は、赤見台第一小が開校して児童が減少し、統廃合の話があったが、その後、箕田小区域内に人口が増えその話はなくなってしまったことがあった。
(学校関係者)
- ・ 皆さんの意見を聞いて笠原小の良い話があった。地域の皆さんの意見により、笠原小を残すことができると思う。
(笠原地域以外の方)
- ・ 笠原小学校は、現在 96 名、新年度は 10 名の児童という学校であるが、保護者の皆さん、地域の皆さんに支えられている。適正配置については、今日始まったばかりだが、子どもたちのことを第一に考え、保護者、地域の方々の意見を聞いて、慎重に進めてほしいと思う。
(学校関係者)

(以下、審議会委員より)

- ・ いろいろな意見が出て、たくさんの方に集まっていただき、ありがたいと思っている。
今ではなく、20年後、30年後を見て考える、本当にそう思う。140年の歴史のある小学校がなくなることは非常に重大なことである。若い世代の方からも意見交換会に参加してもらい、意見を伺いたいと考えている。
市への要望のある方は、直接出していただきたい。
市を挙げた対応を考えてほしい。
- ・ 皆さんのご意見を聞いて、笠原地域は良いコミュニティができていると痛感した。子どもの意見もよく聞いてほしいと思うので、家で子どもたちの声を聞いてほしい。
- ・ 皆さんのご意見を聞いて、笠原は鴻巣市の手本にしていきたい地域だと感じた。熱意のある、そしてここに住んでよかったという想いが伝わってきた。
- ・ 皆さんのご意見を踏まえて審議会で審議していきたい。

主な質問・回答

I. 適正配置について

Q 1 合併について、何もまだ決まっていないという説明だったが、笠原小、常光小の児童が中央小にということだけでなく、笠原小に常光小、中央小の子どもが通う、常光小に笠原小、中央小の子どもが通うという考えはないのか。それとも中央小に3校をまとめることなのか。

A 先ほどの説明のとおり何も決まっていない。そのようなご意見があるということも含めて、今後審議を進めていきたい。

Q 2 統合を何年くらいにと考えているのか。

A 今は何も決まっていない。これから地域の皆様のご意見を聞き、審議会にて審議を進めていきたい。

Q 3 統廃合するにあたり、2点聞きたい。一つは、統廃合を進めるにあたり、こういったプロセスで、いつまでに統廃合するのか。もう一つは、このような意見交換会を通じて、地域のつながりなどで、統廃合でなく学校を残すといった事例はあるのか。

A 適正配置までのプロセスとしては、今は教育委員会から審議会に適正規模、適正配置について諮問し、保護者や地域の方々の意見を聞いている段階であり、今後、審議会でも議論をして方向性等について検討していくこととなる。本日は保護者の皆さん、来月には地域の皆さんからのご意見を伺い、他の事例等を参考にしながら審議を進めていく予定であるため、時期は決まっていない。

統廃合でなく学校を残した事例ということだが、統廃合が前提ではない。また、小規模校が悪いということで意見交換会を行っているわけではない。小規模校には小規模校の良さがあることも十分理解している。子どもたちの将来の教育環境を考え、皆さんからのご意見を伺っている。地域と学校とのつながり、また、地域の防災拠点等、皆さんからのご意見

を伺い、審議会にて審議を深めてもらいたいと考えている。

Ⅱ. スクールバスの運行について

Q 4 地図を見ると、笠原小が中心になるのですが、中央小の児童がスクールバスを利用、常光小の児童がスクールバスを利用することも踏まえて検討するということがよいか。

A そのようなご意見があったことも踏まえて、十分に審議していく。

Ⅳ. 意見交換会について

Q 5 意見交換会と言っているが、保護者側から一方的に意見を述べ、拍手して終わっているが、審議会からの意見はないのか。

A 審議会は、教育委員会から適正規模、適正配置について諮問を受けている。審議会委員は育った環境も違い、自分たちが育った学校も違う。皆さんからの意見を聞かないと諮問内容を判断する材料がないので、鴻巣地域、吹上地域、川里地域に出向き、地域の皆さんからのご意見を伺い、十分に審議し方向性を出さなくてはならない。審議会委員の中には笠原地区の事情や状況について、良く理解している人もいればそうでない人もいるので、今は皆さんからの意見を伺っている現状である。

Q 6 他の地域での意見交換会では、どんな意見が出たのか教えて欲しい。他の地域の意見を聞いて参考にできればと思う。

A このような人数を集めての意見交換会は、今回が初めてである。「宮地 1 丁目地区」の通学区域の見直しに関する意見交換会は開催したが、過程の段階なので、意見は集約されていないため、ここでお話できる段階ではない。